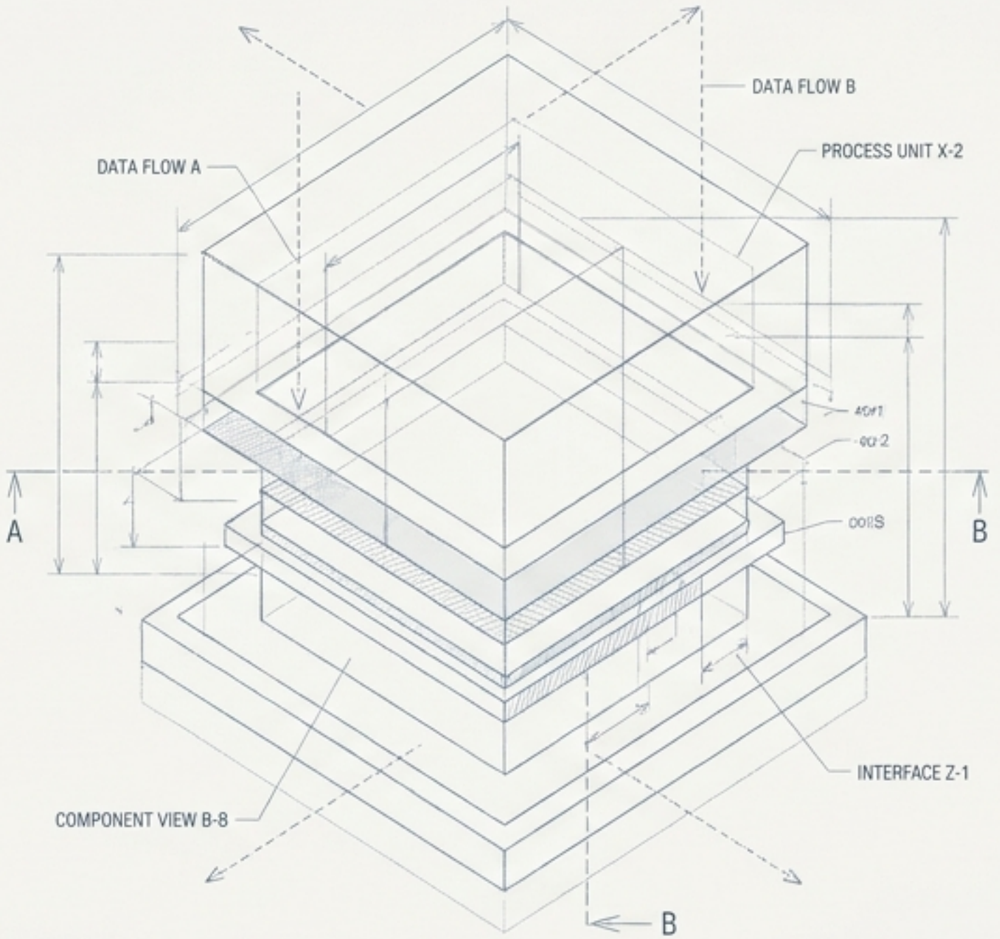
'ANALYSIS FRAMEWORK'

Gemini 4 Neon と知財実務

高度分析モデルの特許調査への適用・評価・PoC設計ガイド

2026年11月19日版 | GPT-6.2 Astra アーキテクチャ対応

ターゲット: 知財部門マネージャー / 特許調査担当者 / 弁理士



Gemini Notebook

DATA VALIDATION
SOURCE TRACKING

中核的価値 (Core Value)



多数の公報から、**原文で検証可能な裏付け資料**を短時間で構築。**ハルシネーションを避け**、引用元ページや測定条件を確実に抽出する能力に特化。

MODEL COMPARISON
EFFICIENCY GAIN

モデルの立ち位置 (Positioning)



最高難易度モデル Carbon **に匹敵する総合力**を維持しつつ、**処理時間を約4割短縮**。繰り返し発生する高度な知財タスクの最適解。

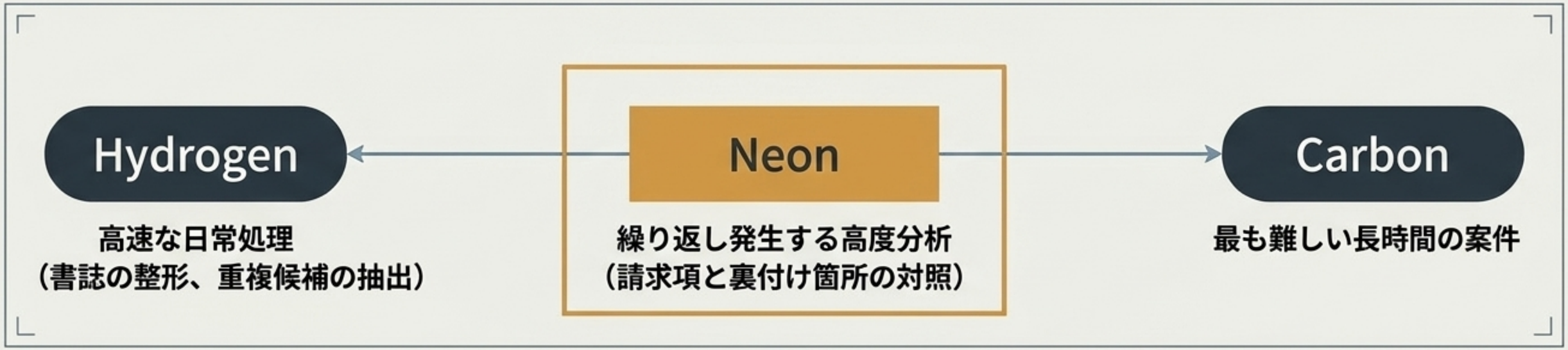
RECOMMENDATION
PoC SCOPE

最初のアクション (First Action)



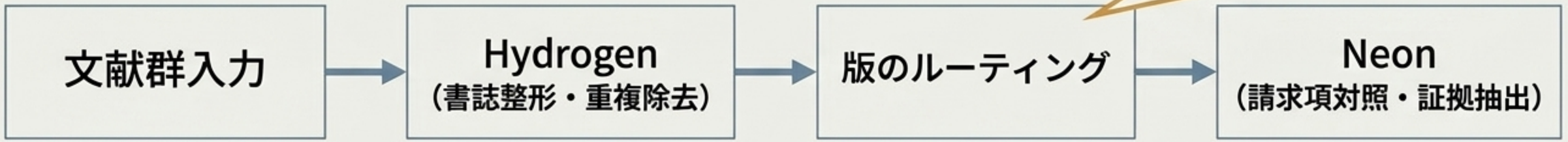
まずは公開公報と登録公報の「**請求項の差分抽出**」および「**SDI（新着監視）**」の実証（PoC）から開始を推奨。

Gemini Notebook



Google Antigravity上の分業フローチャート

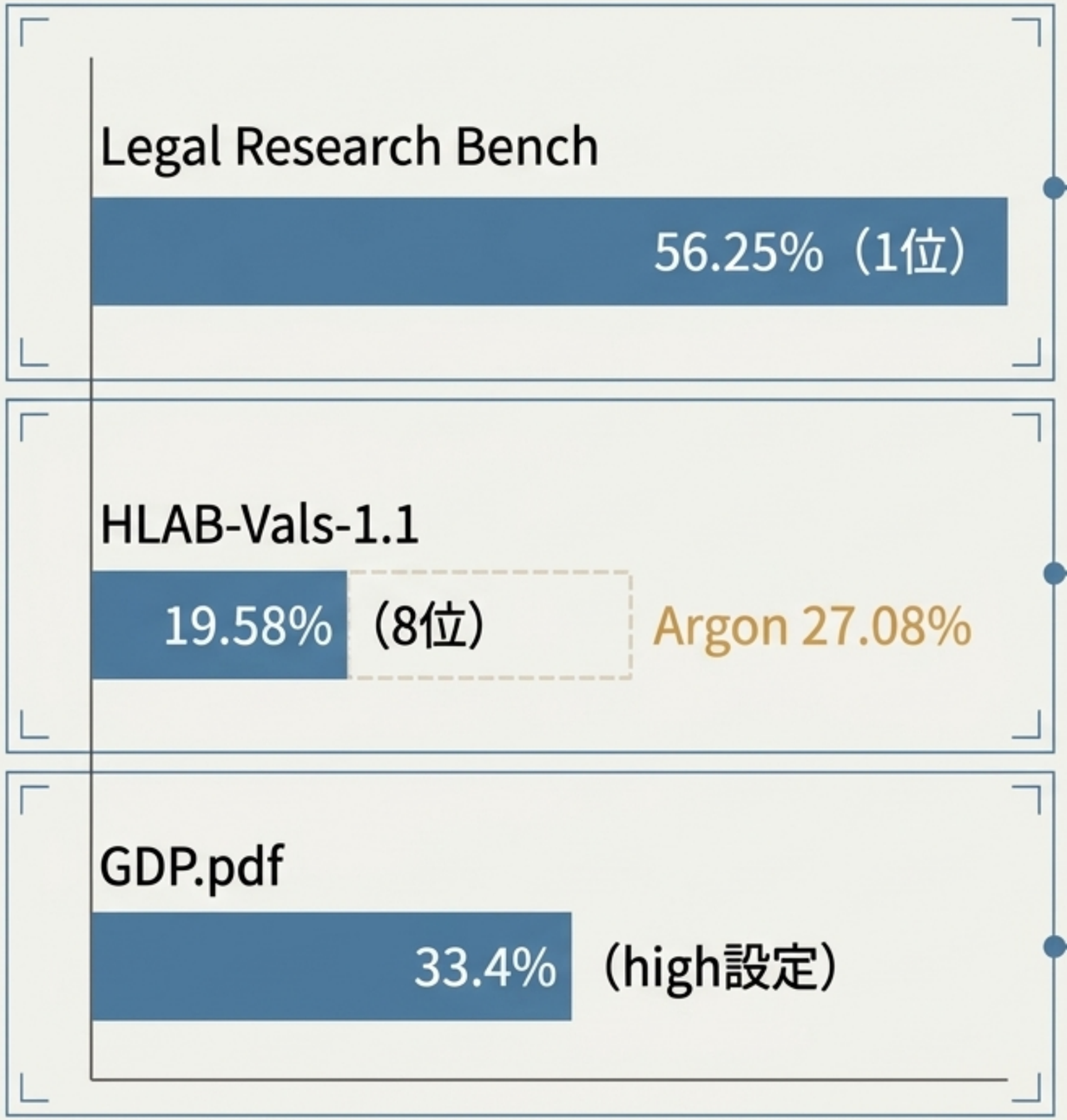
同一ファミリー内でも各国の登録クレームを保持し、参照する公報番号と版を正確に後工程へ渡す。



Gemini Notebook

最初に試す (Try First)	次に試す (Try Next)	個別に管理 (Manage Individually)
タスク：SDI（新着監視）、A公報・B公報の請求項差分 **理由：**重要文献の見落としや、追加限定・数値・単位の脱落発見に直結するため。	**タスク：無効資料の対比表、FTO（侵害予防調査）の要件別証拠表** **理由：**対象国や請求項の版管理、自社製品仕様との厳密な照合ステップが必要なため。	**タスク：未公開発明の整理、明細書草案作成、拒絶理由対応の補正案** **理由：**利用契約上のログ保存リスクや、原始資料にない技術事項が追加される（ハルシネーション）警戒が必要なため。

Gemini Notebook



実務への読み替え：米国法（行政・規制等８分野）における強み。判例・法令を索し出典付き論点メモを作成する能力。
※日本特許専用の採点ではない点に留意。

実務への読み替え：ファイル操作を含む法務作業の弱点。契約レビューや意見書作成など、複雑なファイル参照を伴う作業は別枠での検証が必要。

実務への読み替え：長い業務PDFでの全要件合格率。資料照合はhigh設定から試し、理由の付かない除外事項はxhighで再点検する運用が必須。

Gemini Notebook



長文処理能力（1,048,576 トークン）

出力上限は1区間65,536。知財への影響: 枠を使い切ると推論余地が減るため、公報単位で証拠を抽出した後に集約するバッチフローを推奨。



4段階の推論深度（low, medium, high, xhigh）

知財への影響: 書誌整形はlow、標準の証拠抽出は既定のhigh、複雑な例外（拒絶対応など）はxhighと、案件ごとに使い分け費用対効果を最適化。



知識の時点（2026年3月）

知財への影響: 新着公報、訂正、失効、出願経過はモデル内に存在しない。必ず調査日を定め、外部DB(J-PlatPat等)から最新データを取得・注入する。

Gemini Notebook

API vs Consumer アプリ

個人向けPro/Ultra
（企業条件適用外リスク）

企業向けDeveloper APIへの接続
（製品改善利用なし）

Google Cloud ログ保存規定

不正利用監視ログ最大30日保存。Cloud Master Agreementの「人手レビュー除外設定」を確認。

抽象化ルール (Actionable Rule)

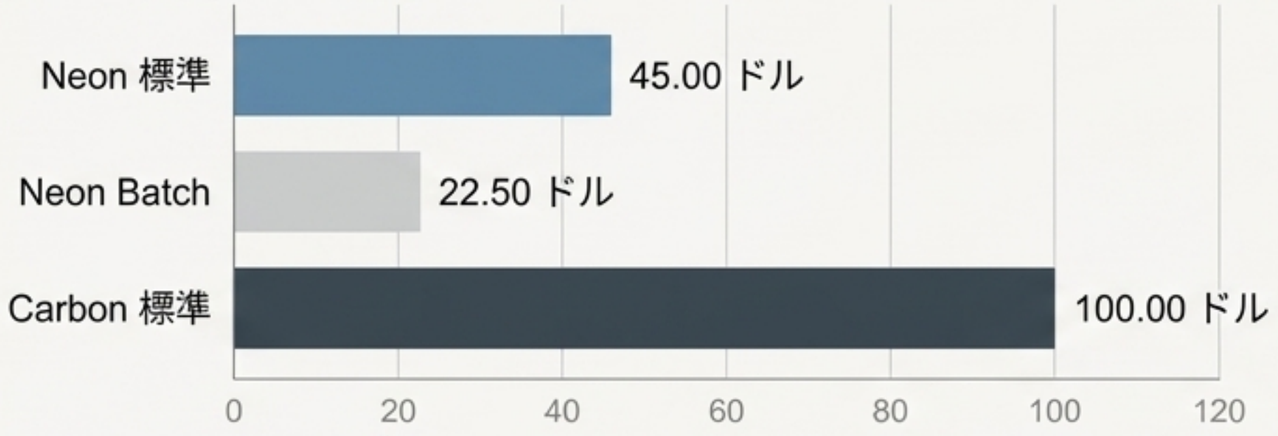


未公開の製品名や配合率は「公開語彙」にマスキングして検索。機密情報との紐付けは承認済みのセキュア環境・オフラインでのみ実施。

Gemini Notebook

経済性比較: コストと時間

500件処理時コスト



1件あたり所要時間



公報1件あたりのコスト試算条件

入力	2万トークン
出力（思考含む）	2千トークン
Neon 標準単価	0.09 ドル/件

Gemini Notebook

	AI（Neon）の作業領域	Human（専門家）の作業領域
SDI	TASK ID 独立項・従属項の区別、 数値限定の抽出と分類	PRGCESS FLOW 低関連群からのサンプリング 点検と除外理由の記録
先行技術調査	TASK ID 要件分割、同義語候補からの 検索式案作成	PROCESS FLOW PROCESS FLOW 基準日と公知日の確認、 複数文献を組み合わせる論理付け
FTO	TASK ID 製品仕様に対応する証拠と 測定不足の対比表作成	PROCESS FLOW PROCESS FLOW 登録・訂正後の文言確認、 クレーム解釈・均等論の検討、 最終結論の判断

Gemini Notebook

実例検証：公開 vs 登録の差分（トイレットロール特許）

公開（特開2017-225845）	登録（特許第6606139号）
	追加: 比容積 4.0～6.5 cm^3/g, エンボス面積 0.4～7.0 mm^2
0を含み、60質量%以下	0を超え、60質量%以下
最外巻の端縁から巻長の10%位置	最外巻の端縁から巻長の10%位置

下限の包含関係の変化

単なる数値一致ではなく
測定位置の前提確認が不可欠

Gemini Notebook

特許対比のためのプロンプト構造

タスク指示

公報番号と種別を確認し、請求項1と6を版別に分解せよ

出力フォーマット指定

各行に要件、参照請求項、数値範囲と端点の包含、単位、測定条件、根拠ページを記入せよ

例外処理の定義
(ハルシネーション防止)

記載が見つからない項目は『当該請求項に記載なし』と明記せよ。
製品の測定値が不足する場合は、次に取得すべきデータを列挙せよ。

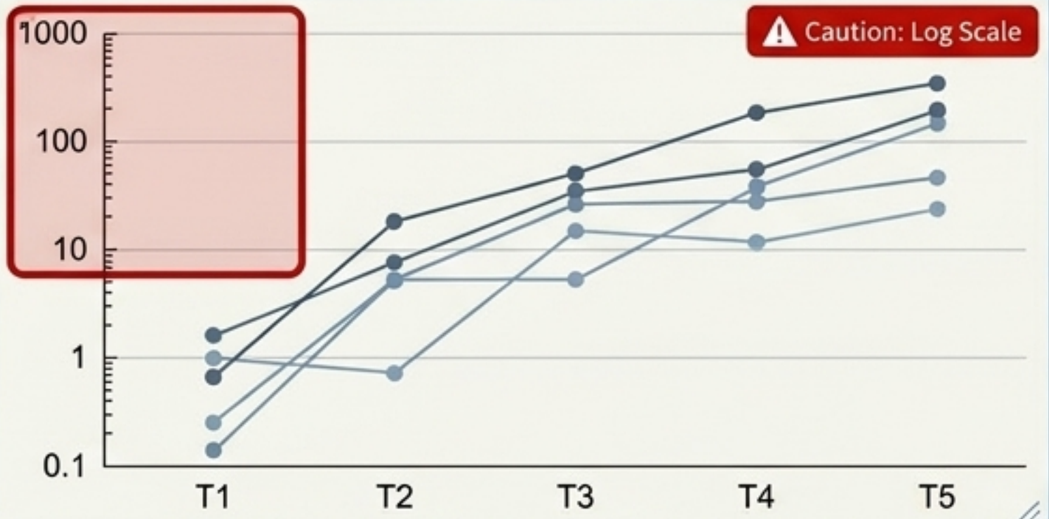
Key Insight: 「無いものを無い」と言わせる例外処理と、測定条件（単位・位置）の指定が知財プロンプトの生命線。

Gemini Notebook

技術図表の読解における警告

Chartographyスコア：Neon 73.5%（参考：GPT-6.2 Sol 75.1%）

対数軸を用いたデータ推移



化学組成データテーブル

成分	含有量 (質量%)	含有量 (質量%)	備考
A-1	2.50	18	
A-1	6.50	13	
A-1	6.50	12	
B-2	5.00	11	
B-2	4.90	10	
C-2	0.20	5	
C-3	0.30	4	
C-3	0.15	4	
D-4	0.20	5	
D-4	0.00	6	

* 鉄支冰定
* 鉄脱的膜的色が炊ぶるには、1的量に浪繁にする必殺有膜の注記がもある。

Caution: Fine Note Oversight

** 表中の含有量に対するた分が特が好定。
** 比較例に含量などの充記に含有金がある。
** 比較例の機能の強的おをはす。

材料特許における「対数軸の見落とし」「比較例の微細な注記の見落とし」により、権利抵触の結論が反転するリスクが存在。

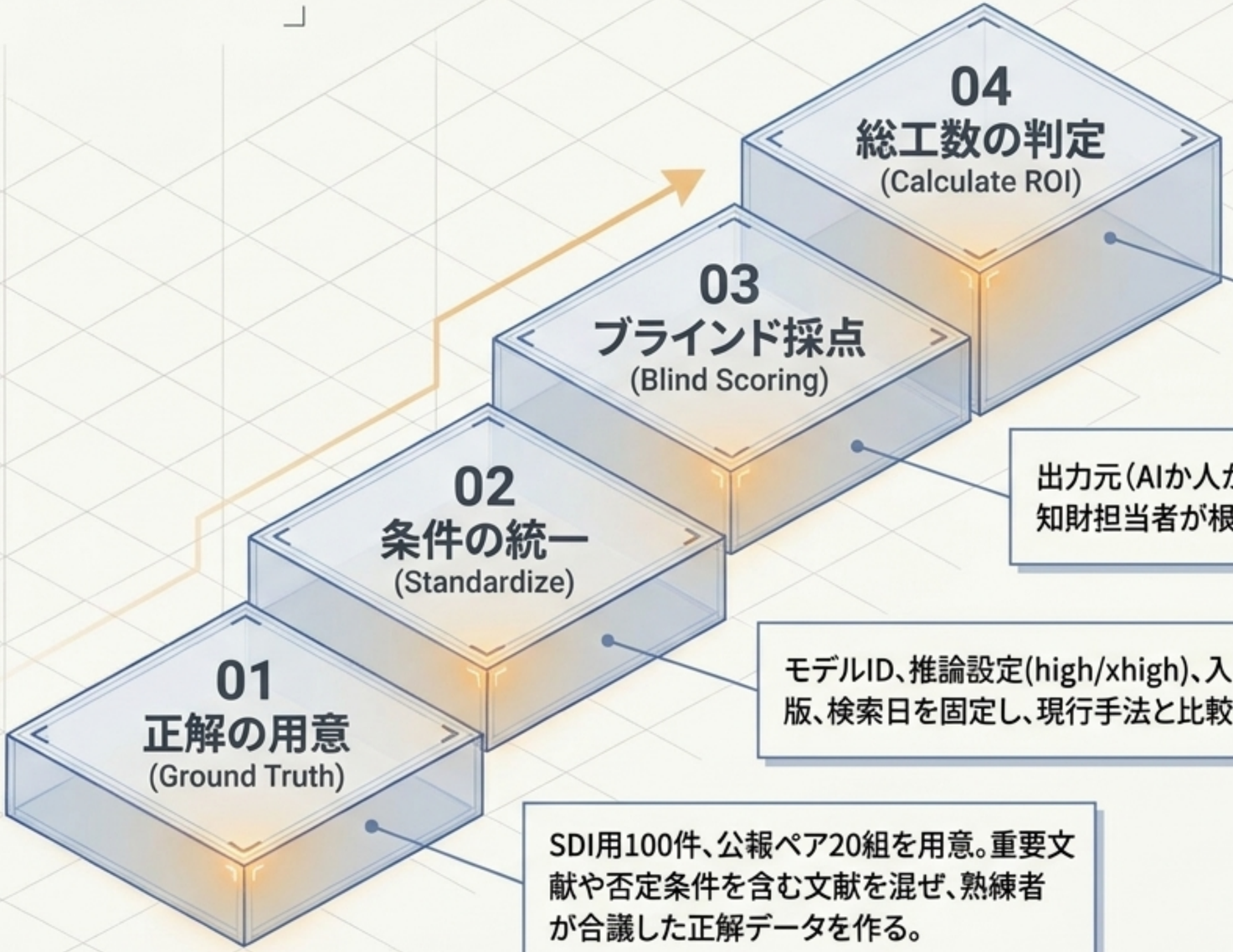
Operational Rule	運用上のルール: AIの出力には必ず「表中の値」か「グラフからの概算値」かのタグ付けを義務付け、後者の場合は必ず元データ（公報原文）をヒトが目視確認する。

Gemini Notebook

Precision analytic dashboard

[PROCESS FLOW]

[EVALUATION MATRIX]



SDI用100件、公報ペア20組を用意。重要文献や否定条件を含む文献を混ぜ、熟練者が合議した正解データを作る。

モデルID、推論設定(high/xhigh)、入力の版、検索日を固定し、現行手法と比較する。

出力元（AIか人か）を伏せた状態で知財担当者が根拠箇所と結論を採点。

AIの処理時間だけでなく、「修正・再検索・専門家の確認時間」を含めた最終的な工数削減効果を算出。

[PROCESS FLOW]

Gemini Notebook

技術調査の精度評価指標



再現率 (Recall)

計算式: 拾えた重要文献数 ÷ 正解件数。絶対に見落としてはいけないい特許をどれだけ捕捉できたか。



適合率 (Precision)

計算式: 抽出した重要文献数 ÷ 抽出総数。ノイズの少なさ。実際の週次SDIデータでの確認を推奨。



裏付け率 (Verification Rate)

計算式: 原文が正しく支持している件数 ÷ 引用総数。ハルシネーション (架空の段落引用や要件の捏造) の排除指標。

Gemini Notebook

結論と次のアクション (Conclusion & Next Steps)

**Gemini 4 Neon は、知財実務を『自動化』する魔法の杖ではない。
専門家が最終判断を下すための『高精度な下ごしらえ』を、
かつてない速度と低コストで実現する強力な分析エンジンである。**

- [ ] 自社Google Cloud環境における契約条件 (ログ監視と人手レビュー除外設定) の確認。
- [ ] 過去のSDIデータ100件を用いた、第一回ブラインドテスト (PoC) の設計と実行。

参考文献: Google DeepMind Model Card, Artificial Analysis, J-Plat
Gemini Notebook